



よ  
縁  
魚

菊  
壽  
堂  
版

1178  
104

五十二編下



孝  
子  
彦  
作

か  
ら  
里

毛  
此

ぬ  
こ

志  
高

五十二編上

1178  
103



志之石

ぬい

毛

加八里

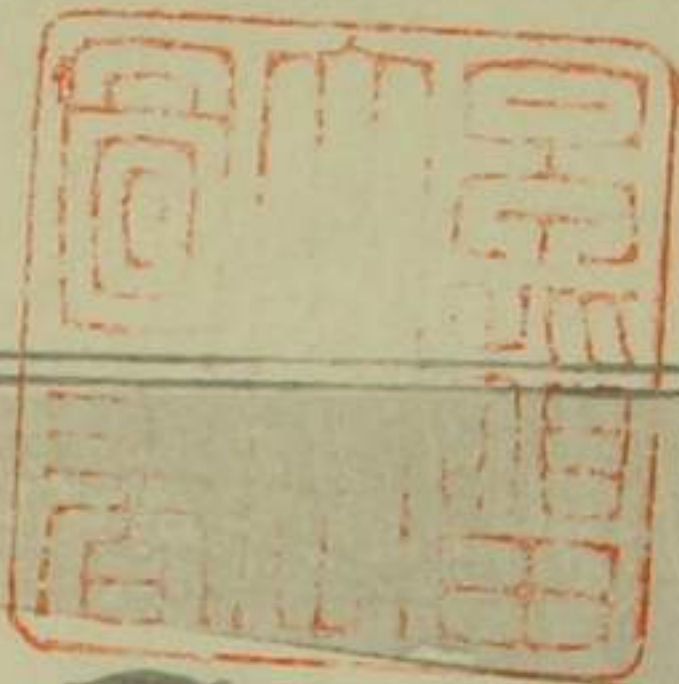
孝子彦作

五十二編上



13  
1178  
103

1178  
103



種彦作  
芳袋重  
五十二海

丁卯春

行

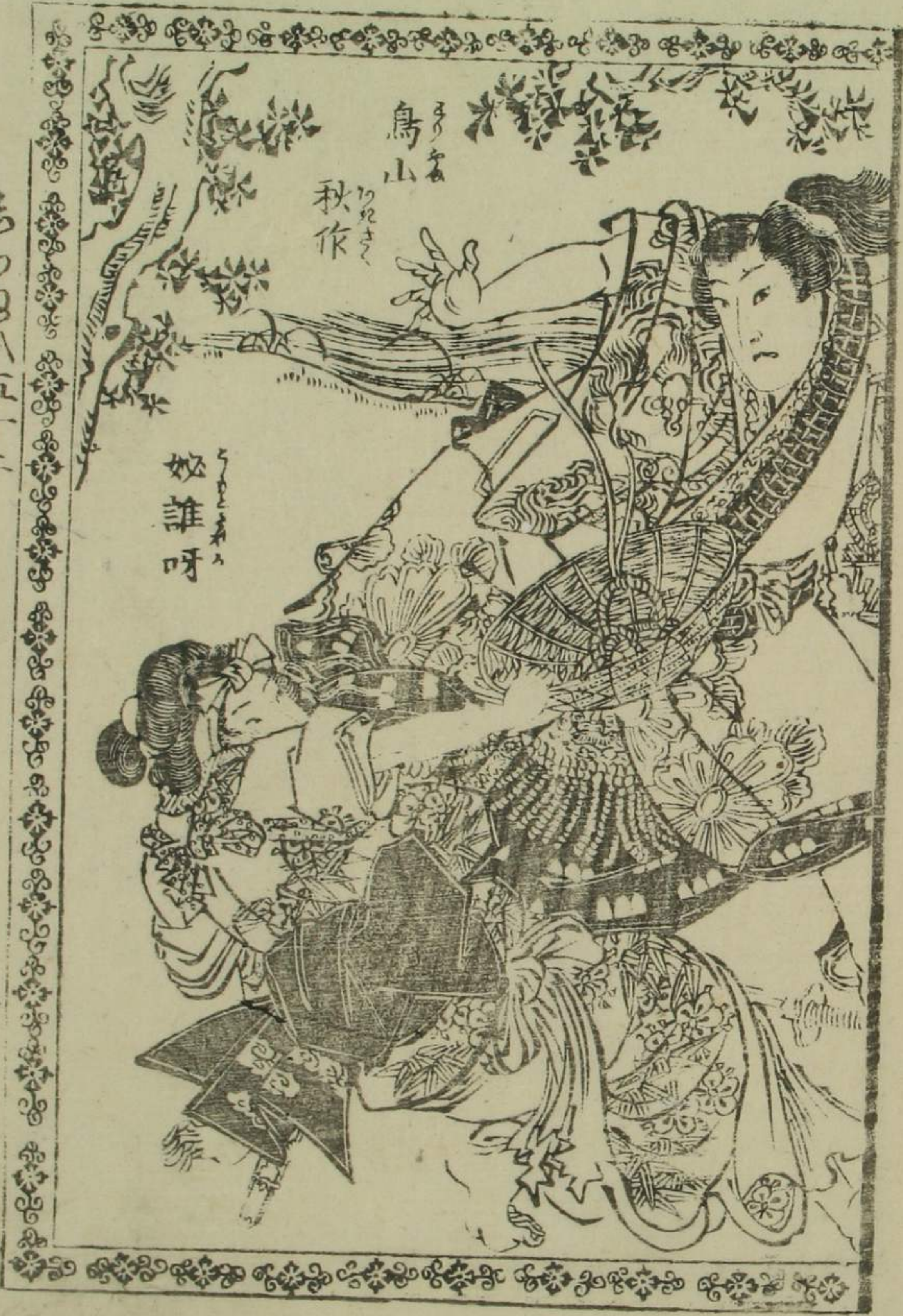
其本春  
半板

物更不意ふ出るに利有さざりとも。心卜ハ大方ハ先合ハ能者ト樂先効  
 嫌言の新婦多く瑕有り聞き高き不二の山推量より有難きハ掛巻も畏き。  
 大神宮の御宮立の貴さ此ニツを取除ておのまむくハ大ま故平城の大佛も此物  
 須摩や明石も行て見れば何処の浦も異ハ去頃よりハ待兼と成ふきハ伊達  
 五郎が山田河内の五人新ハ故人ハ並べハ奥附ふさると思召さるべしと  
 怖気が着て筆が痿痺京(登せ)大友兄弟又光行が話め期そのにて  
 置つれ始終是でいしは佛の大さる少かれ面白くさぬハ猶  
 おわくごまかんし弥此編三登山大蛇川の真劍勝負躰を切つるもつとを志のふ  
 苦心ハ何の甲斐の裏富士の処も吉田と取捨し伊勢の宮殿草葺の茅屋の雨ハ  
 出てきけ卑下さるるも些ハ佳とどむきの中人口ふさるるも手ぬさるる人多  
 べきやうな布ふふむむ

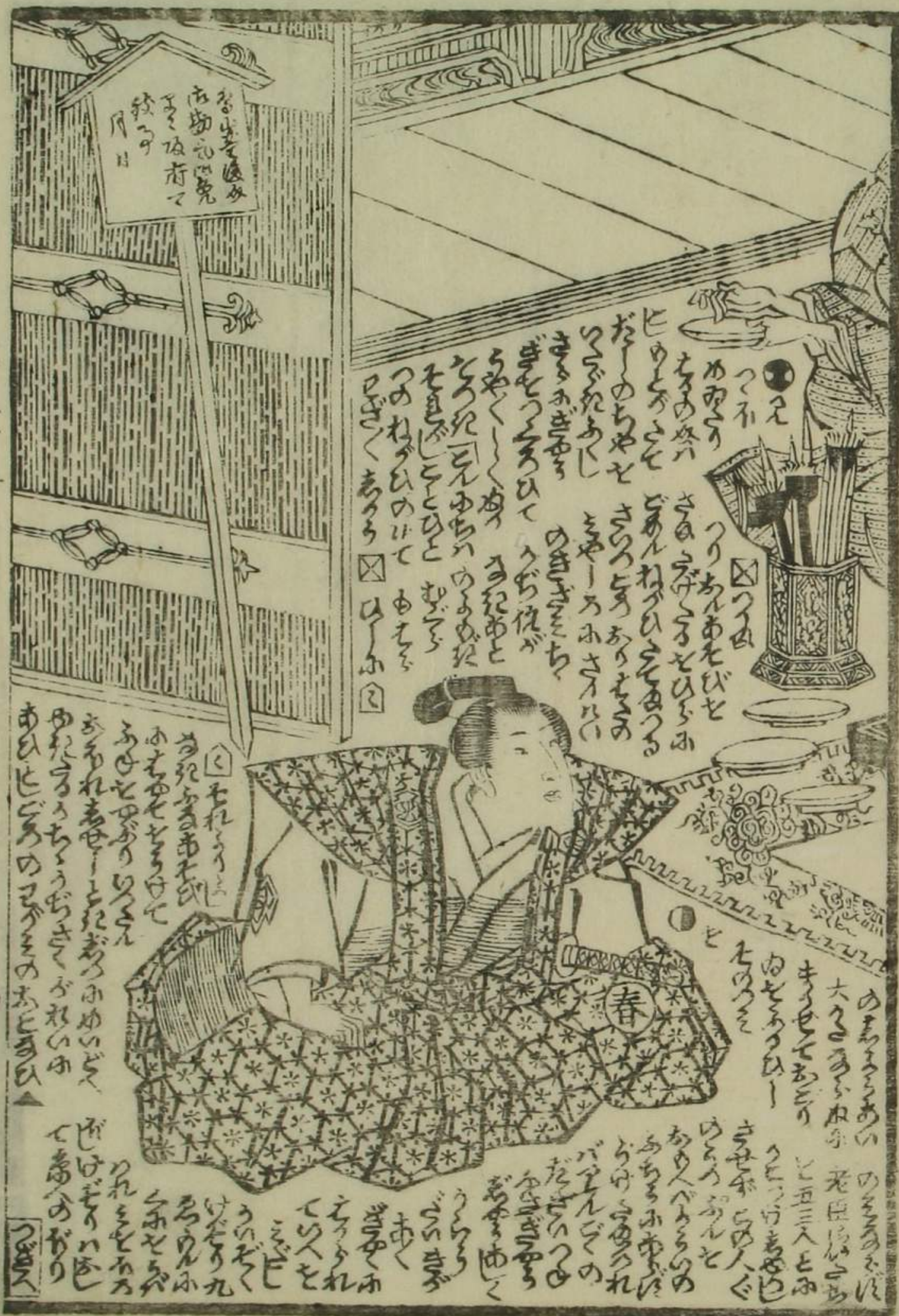
慶應三卯春

柳亭種彦

つづぬ入五十二



















ありあけのやまのむし...  
 かくきうてあくとこの...  
 せうりやうの...  
 ちのつ...  
 川へま...  
 こぞれう...  
 あれ...

ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...

ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...



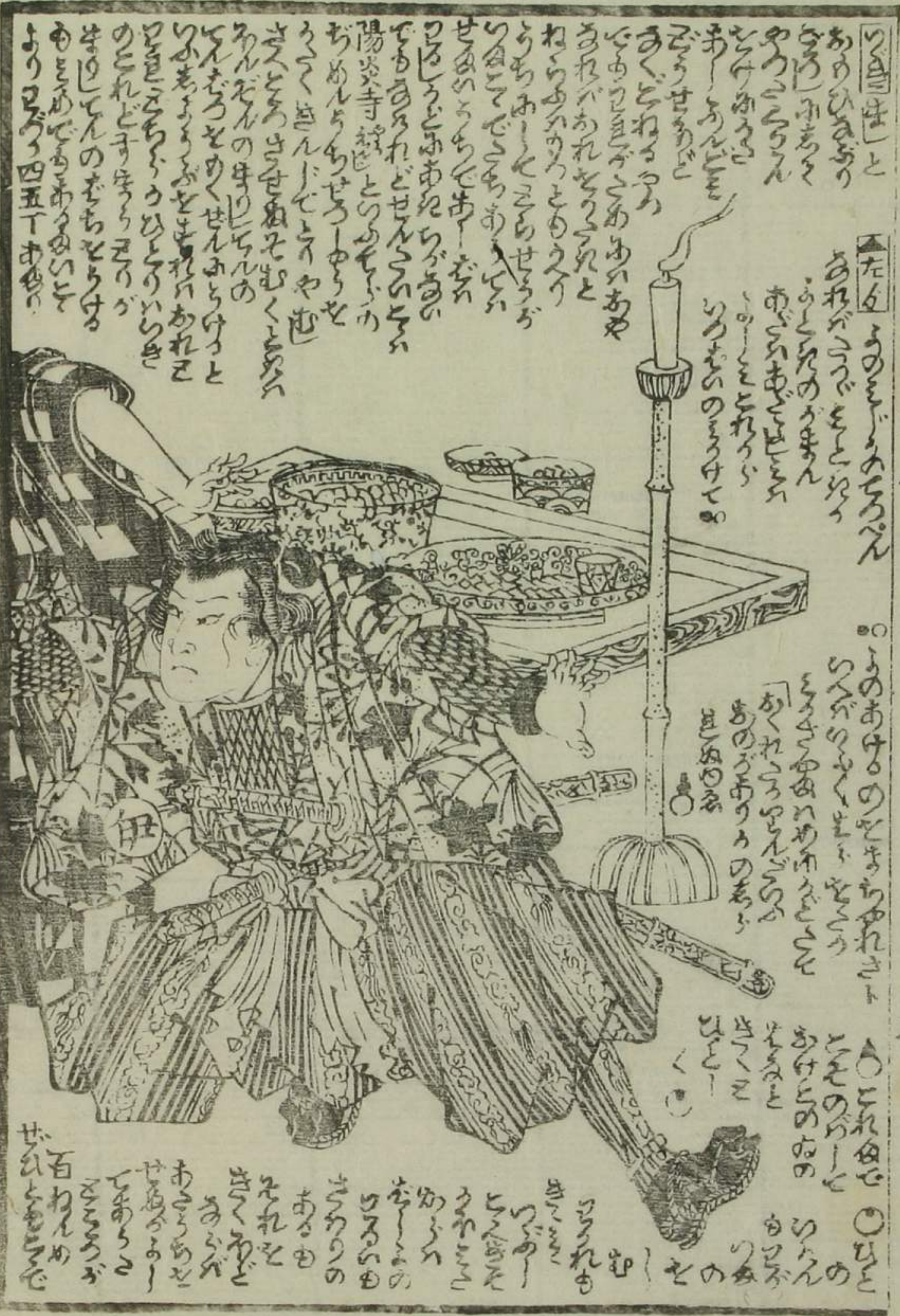
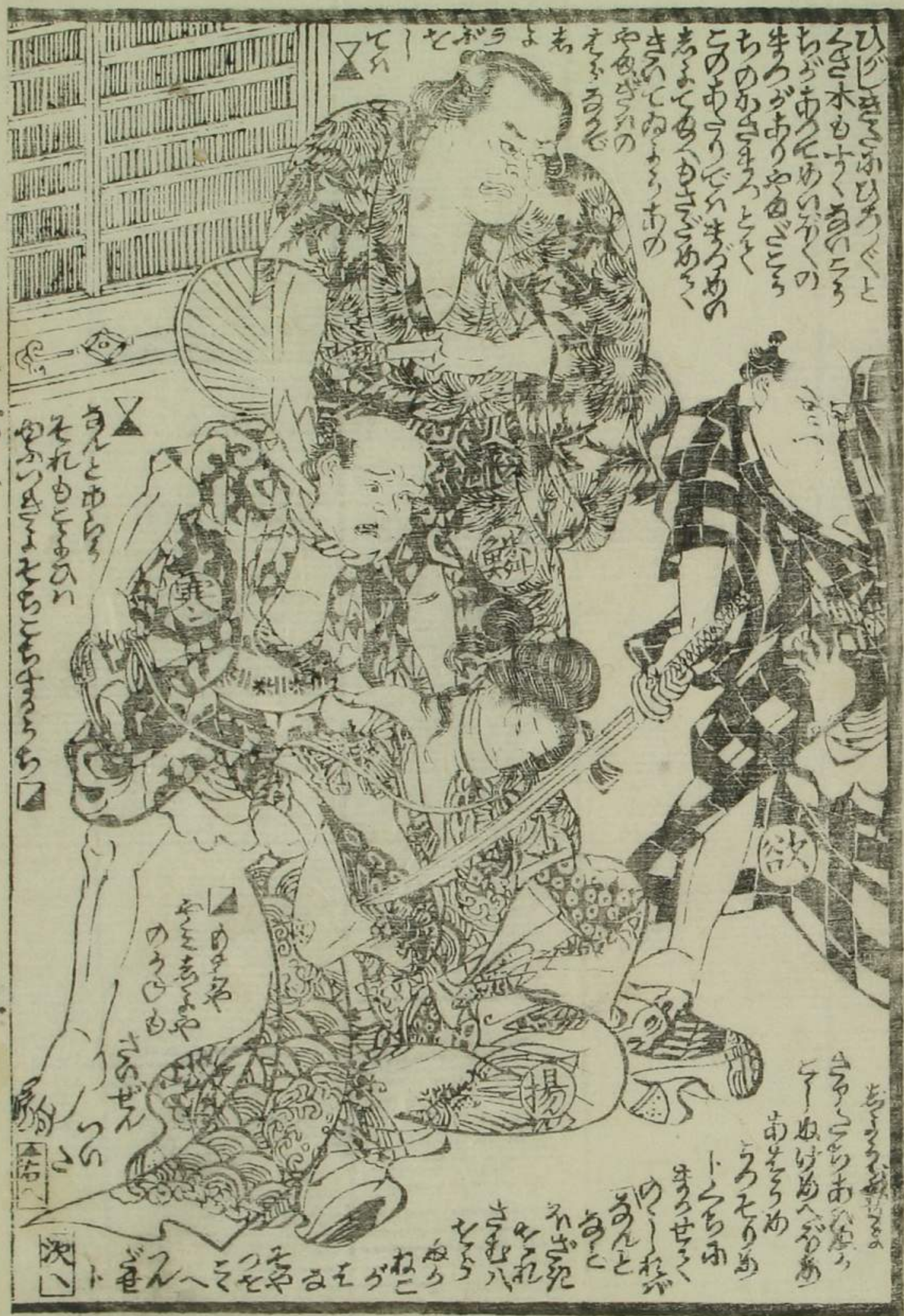
ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...

ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...

ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...  
 ありあけ...

ありあけ...

ありあけ...



江戸の...  
 木もすく...  
 ちか...  
 ちの...  
 この...  
 ま...  
 ち...

せん...  
 それ...

の...  
 の...  
 の...  
 の...  
 の...

江戸...  
 あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...

あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...

あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...  
 あ...



種彦作  
芳幾画

志のぬいし禪

五編 一惠啓芳幾画

兩面織花田物語

五編 同

假名續八犬傳

五編 假名垣譽文録

古今 似顔大全

故豊國 羽華

太平記英勇傳

中 錦山々亭有人記  
百番續 惠齋 芳幾画





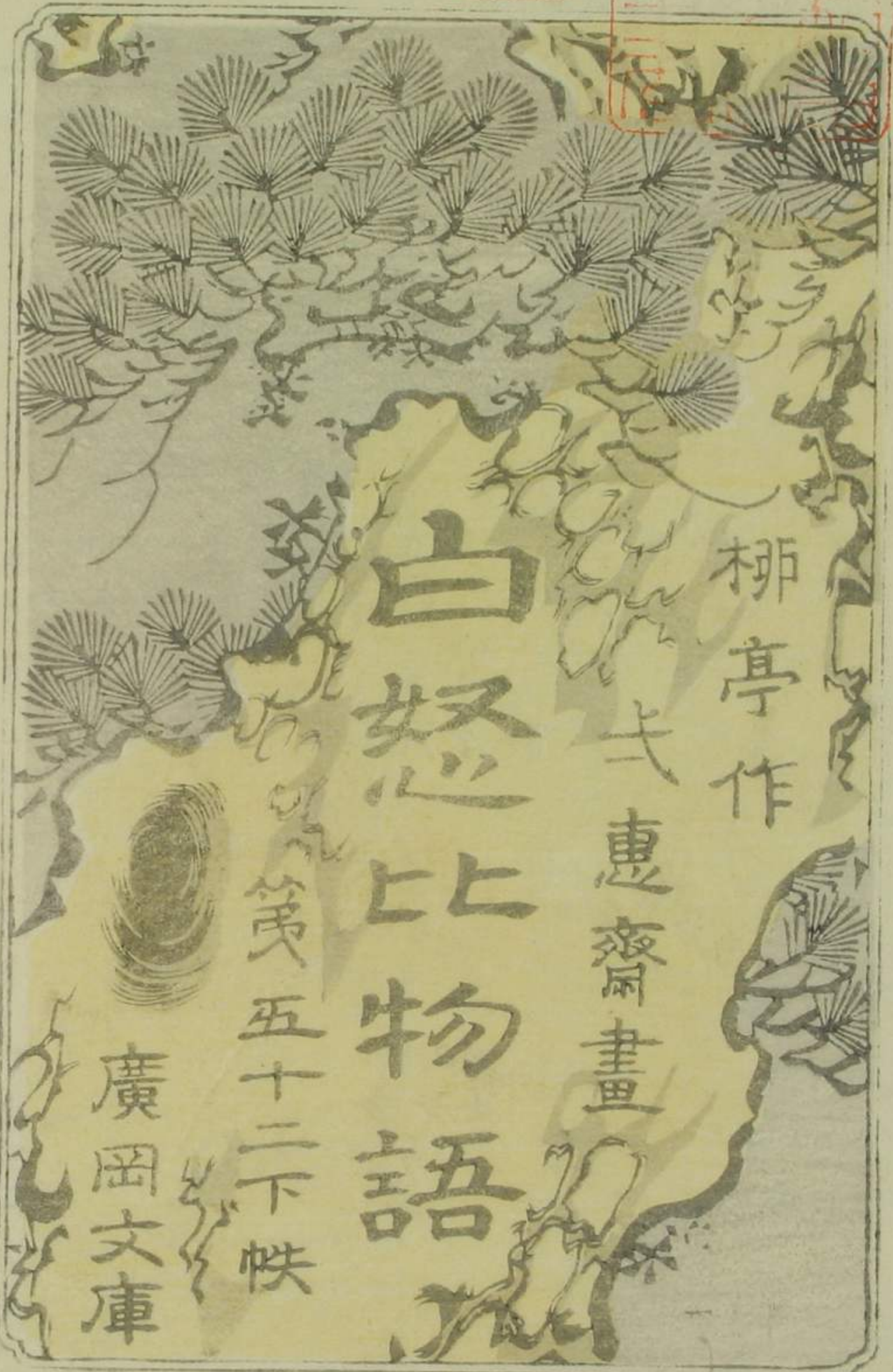
よ 兼重

菊 堂 版

へ13  
1178  
104

五十二編下

1178  
104



白奴心七物語

柳亭作

式惠齋畫

第五十二下帙

廣岡文庫

三



上のつぎ

とむねつ  
さあふあす  
そのこれを  
くふふふ

立春大上

あれちどぬであ  
とあふを

伊

※  
おのぬも  
わりやれぬ  
はれど由

そのま  
せのあふ  
そのあふは  
そのあふは  
そのあふは

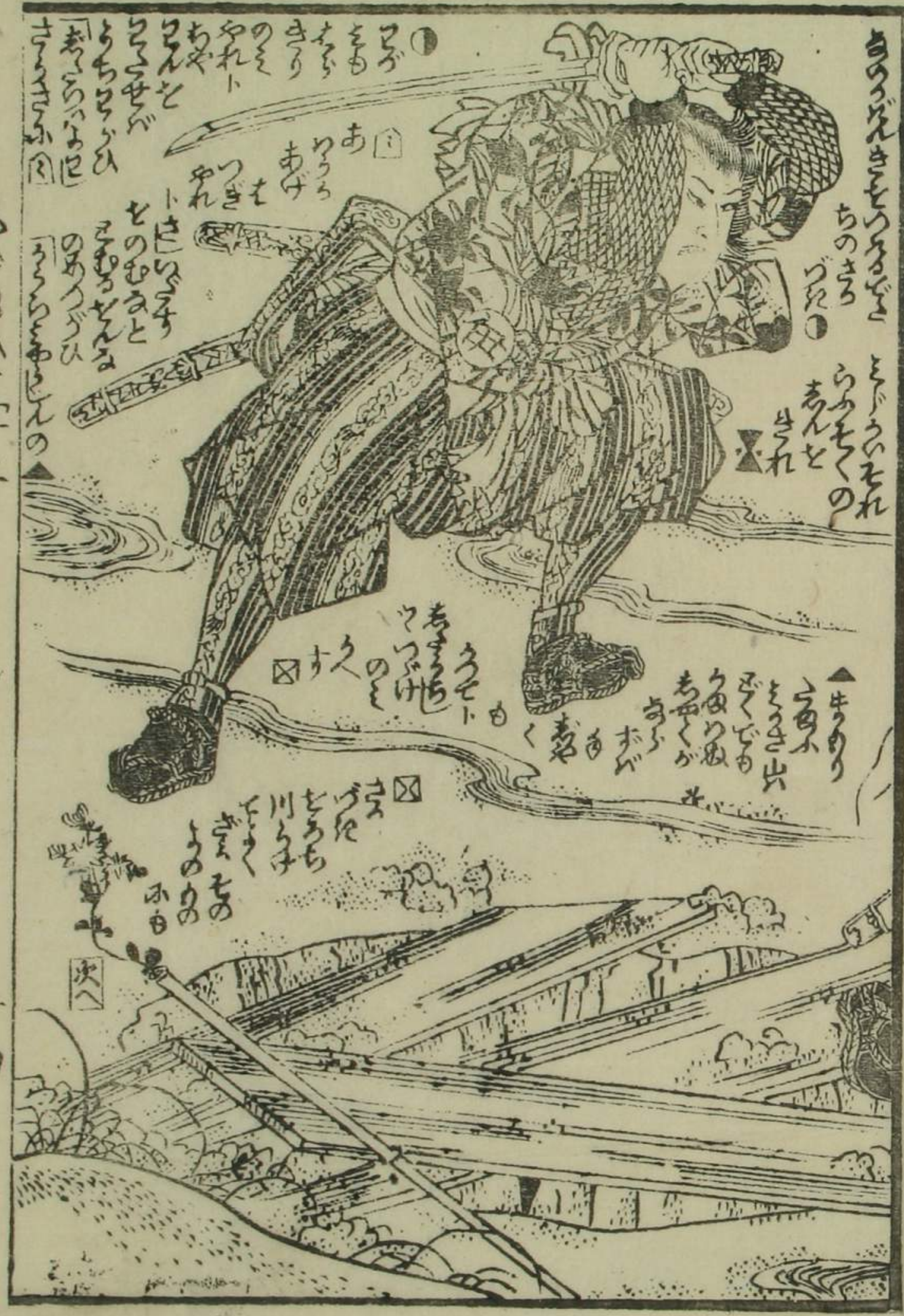
のちのあふ  
そのあふ  
そのあふ  
そのあふ  
そのあふ

このあふは  
そのあふは









あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ



あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ  
あつたふらひ

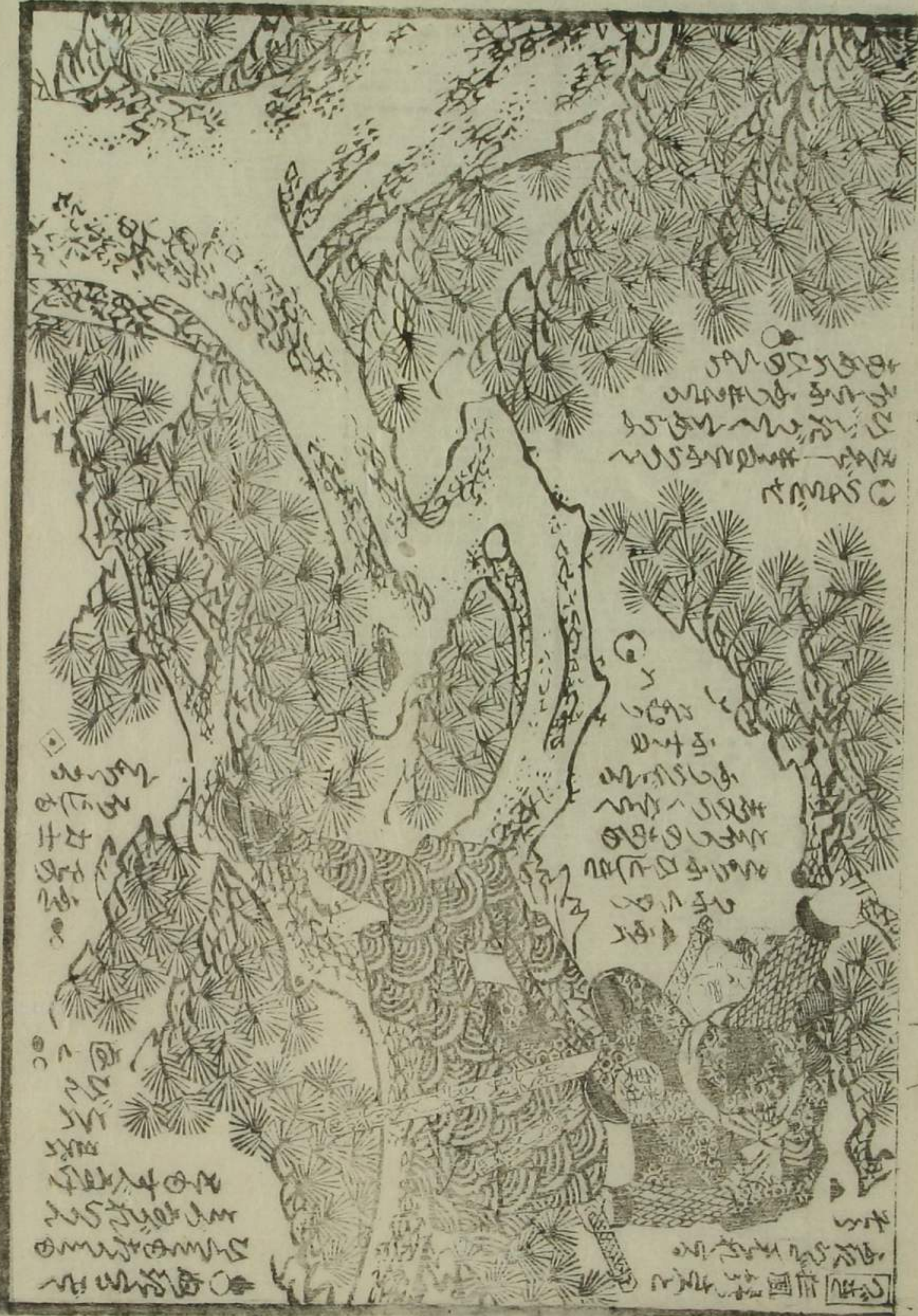








Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a legend or descriptive text for the illustration. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols, some enclosed in boxes.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the legend or descriptive text from the left page. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols, some enclosed in boxes.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or dialogue, positioned in the upper left and center of the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or dialogue, positioned around the central illustration on the left page.





北東草紙回廊

江戸深川 依佐美所 廣園強幸 助梓

浪種黄金鮠

名響の真鍮  
 楠木金輪  
 名善の筆  
 林五松

浪種黄金鮠  
 三編請切

一對男の癖... 此作は...

三編請切  
 山々亭 有人  
 小石齋 有人  
 梅泉齋 有人  
 松湖齋 有人  
 飯沼竹 有人  
 可也 有人

廣園強幸 助梓

火用心



種彦作  
 芳幾畫

江戸深川 依佐美所

